

情報処理学会 IoT行動変容学研究グループ キックオフシンポジウム



■URL : <http://www.sig-bti.jp/> / Twitter : [@ipsjbtj](https://twitter.com/ipsjbtj)

■日程 : 2022年4月16日(土) 13:00～17:00
(12:00 発表者向け開場) (12:30 参加者向け開場)

■開催場所 : 青山学院大学 青山キャンパス
総合研究所ビル(14号館) 12F
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
地下鉄表参道駅徒歩5分 JR渋谷駅徒歩10分

アクセス: <https://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/aoyama.html>

■ Zoom (参加者には当日までにメールでお送りします)

◆実空間会場での新型コロナウイルス感染防止対策について◆

実空間会場 (青山学院大学) での新型コロナウイルス感染防止対策については、皆さまの健康と安全のために、下記の点についてご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

詳しくは <http://www.sig-bti.jp/event/kickoffinfo.html> をご覧下さい。

プログラム

□13:00～13:10 オープニング / 主査ご挨拶

□13:10～14:20 基調講演

「ヒューマンサービスとしての行動変容学：応用行動分析学の理論・基礎・実践との連携」

山本淳一 (東京都立大学特任教授 / 慶應義塾大学名誉教授)

心理学を基盤として構築された応用行動分析学 (applied behavior analysis) について、具体的な研究、実践、事例を取り上げて、行動変容学との連携に発展させることを、基調講演の目的とします。応用行動分析学では、行動を、「環境」と「個人の反応」との相互作用システムととらえます。したがって、行動変容のためには、環境を変えること、個人の反応を変えること、環境と個人との相互作用を変えることが、目的となります。システムなので、常にPDCAを回しながら、効果的な介入方法を明らかにしていきます。ターゲットとなる行動がドラスティックに変容する条件が明らかになった時、その現象が理解できたと考えます。行動を制御する条件を明らかにすることに徹底し、仮説構成概念を用いないという姿勢を貫いています。様々な事例を含めて概説をお話しした後に、トピックとして、講演者が取り組んできた発達障害のある幼児・児童の行動変容に関する基礎研究、臨床研究、実践研究の具体的な話しをします。その中に、身体、ことば、こころ、発達、学習、障害、社会性、意欲、幸福、子育て、親子関係、学校教育、福祉、心理臨床、地域支援、遠隔地支援、など様々な行動変容のテーマを

含めます。さらに、現在、融合領域の構築に取り組んでいる精神科臨床での成果（行動ウェルネス）、理学療法・作業療法・



言語聴覚療法などのリハビリテーションとの融合（行動リハビリテーション）について、実践的な話題を提供します。さらに、今後取り組む予定のロボティクスとの共同研究についても触れ、討議を発展させたいと考えています。

本講演で示す研究は、JST【ムーンショット型研究開発事業】【JPMJMS2034-3】の支援を受けた。

□14:30-15:45 **Poster/demoセッション**

14:30-14:40 オンライン発表者のポスター発表

14:40-15:10 現地ポスター発表（前半） P1, P3, P5, P8, P10, P12, P14, P19, P21, P23, P25, P27, D3

15:15-15:45 現地ポスター発表（後半） P2, P4, P6, P9, P11, P13, P16, P18, P20, P22, P24, P.26, P.28

□16:00-17:00 **研究事例報告**

- **時空間ビッグデータによる行動変容の可能性 (1) (16:00-)**
岩本健嗣（富山県立大学 工学部 電子・情報工学科 准教授）
- **時空間ビッグデータによる行動変容の可能性 (2) (16:10-)**
米澤拓郎（名古屋大学大学院 工学研究科 准教授）
- **Persuasive Technology 2022 参加報告 (16:20-)**
酒井智弘（株式会社KDDI総合研究所）
中村優吾（九州大学大学院システム情報科学研究院 助教）
- **パフォーマンス・エンジニアリングシステムと行動変容 (16:40-)**
是村由佳（株式会社コレムラ技研）
- **当たり前を疑うことからの行動変容 (16:50-)**
大森幹真（早稲田大学 人間科学学術院 准教授）

□17:00-17:30 **パネルディスカッション「IoT x 行動変容: 今後の研究課題と期待」**

- 司会：LOPEZ Guillaume（青山学院大学理工学部 教授）
- パネリスト
岩本健嗣、米澤拓郎、大森幹真、中村優吾、
是村由佳、石塚宏紀 他

□17:30-17:40 **クロージング**

ポスター/デモ発表一覧

P#はポスター発表。D#はデモ発表となります。題名に*が付された発表はオンライン発表となります。

<p>(P1) 集合的な人間の目の共有を利用したリフレクティブシンキングの促進 木村梨沙, 中島達夫 (早稲田大学)</p> <p>(P2) ウェアラブルデバイスを用いた簡易計測における機械学習を応用した脳波によるうつ病判別モデルの構築において利用できる脳波指標の評価 鈴木圭, 菅谷みどり (芝浦工業大学)</p> <p>(P3) オンライン授業における生体センシングによる精神状態の客観的評価のIoT化に向けて 中川友梨, 谷田川ルミ, PeerayaSripian, 菅谷みどり (芝浦工業大学)</p> <p>(P4) 行動変容向けアンビエントディスプレイの表示カスタマイズによる興味喪失防止 国方詩織, 辻愛里, 藤波香織 (東京農工大学)</p> <p>(P5) ロボットと人のEmotion Awareコミュニケーションを実現するROSによる基盤システム 井口拓海, 菅谷みどり (芝浦工業大学)</p> <p>(P6) Aromug:糖分摂取量低減を補助するスマートマグカップの検討 真弓大輝 (奈良先端大), 中村優吾 (九州大学/JSTさきがけ), 松田裕貴, 安本慶一 (奈良先端大)</p> <p>(P7) *グループディスカッション参加者のマルチモーダルデータに基づく印象・理解度評価法の提案 酒井元気 (日本大学)</p> <p>(P8) 深層学習を用いた「かわいいキャラ」モデル構築とポジティブフィードバック効果の検証に向けて 大塚高柊, TippornLAOHAKANGVALVIT, PeerayaSRIPIAN, 菅谷みどり (芝浦工業大学)</p> <p>(P9) 精神状態推定における因果関係の推定とデータ活用方法の検討 井上健一, 鈴木圭, 菅谷みどり (芝浦工業大学)</p> <p>(P10) 音楽聴取時の快適と覚醒の生体情報による評価方法の検討 JadramNarumon, 菅谷みどり (芝浦工業大学)</p> <p>(P11) 食事音を用いた食習慣改善システム 蒲地遥, 大久保紗恵, 横窪安奈, 口ベズギヨーム (青山学院大学)</p> <p>(P12) 作業コンテキストに応じた「ながら運動」推薦機構 小林美月, 辻愛里, 藤波香織 (東京農工大学)</p> <p>(P13) 社会便益のための ICT 行動変容支援システム 荒川豊 (九州大学)</p> <p>(P14) 発言における感情極性の比率操作を目的としたトークン付与による会議支援ツールの研究 足立雄大, 稲見皓介, 岩本健嗣 (富山県立大学)</p>	<p>(P15) *Twitterを活用したソーシャルナッジのためのいいね!と運動習慣化成功との関係の分析 濱谷尚志, 三村知洋, 山田渉, 落合桂一 (株式会社NTTドコモ)</p> <p>(P16) 楽曲に対するコメントから受容性の高い推薦文を作成する手法の研究 山内大河, 井黒海星, 岩本健嗣 (富山県立大学)</p> <p>(P17) *新型コロナウイルス感染防止に向けた混雑回避行動を促進する行動変容技術の検証 井手崇博, 大滝亨, 山田暁, 佐藤弘之, 落合桂一, 川上博, 矢野達也, 大川博生, 和久井圭祐, 白井拓也 (株式会社NTTドコモ), 荒川豊 (九州大学)</p> <p>(P18) スマートウォッチを用いたマスク装着の促進手法 小野翔多, 西山勇毅, 瀬崎薫 (東京大学)</p> <p>(P19) パフォーマンス工学のIoT行動変容学研究グループへの活用 是村由佳 (コレムラ技研)</p> <p>(P20) SynCook+: 角速度データを用いた炒める動作におけるレシピ動画進行度自動制御システム 村島朋奈, 瀧川みり子, 横窪安奈, 口ベズギヨーム (青山学院大学)</p> <p>(P21) 頭痛発生予測モデル構築に向けた頭痛記録システムの検討 中嶋桃香, 佐々木航, 大越匡, 中澤仁 (慶應義塾大学)</p> <p>(P22) 急ぎ検知モデル作成のための手法の提案 桑田翔平, 佐々木航, 大越匡, 中澤仁 (慶應義塾大学)</p> <p>(P23) アーチエリー時のハイブリッドなコンディション推定手法 高澤雄, 別宮広朗, 大越匡, 中澤仁 (慶應義塾大学)</p> <p>(P24) 遠隔ソーシャルダイニングはどんな行動変容を起こすのか 益田岳 (東京女子医科大学), 酒造正樹 (東京電機大学)</p> <p>(P25) イヤホンマイクを用いた摂取カロリーのリアルタイムモニタリングのための食事内容予測 泉川茉莉, 河崎隆文, 大越匡, 中澤仁 (慶應義塾大学)</p> <p>(P26) COVIDGuardian: Augmented situated visualization to increase risk perception and self-efficacy towards infectious diseases by fear appeal Kento Katsumata, Tadashi Okoshi, Jin Nakazawa (Keio University)</p> <p>(P27) 精神課題における機械学習モデルの構築手法の比較 金井健太郎, 鈴木圭, 菅谷みどり (芝浦工業大学)</p> <p>(P28) リアルタイム心拍変動計測とフィードバックによるアンガーマネジメントゲーム 吉岡佑, 菅谷みどり (芝浦工業大学)</p> <p>(D3) 筋電信号を用いた着脱可能なウェアラブルサイレントスピーチインターフェースの開発 黒瀧悠太 (GMOペパボ株式会社ペパボ研究所, 横浜国立大学), 太田裕貴 (横浜国立大学)</p>
---	---